

二〇一一年五月二八日

屋上のエコ農園も風薫る
郭公の声みずうみに飴しぬ
急カーブなほ続きをる木下闇
挿菊に立つる名札を確かめつ
吊り橋は空中散歩峪わかば
ほととぎう峡田に水の満ちわたり

二〇一一年五月二七日

後ろ手に植田見廻る老ひの背な
旅一日緑雨の湖畔たもとほり
歌いつぱい唄ひしあとのソーダ水
大噴水穂先は空の色となり
絵仲間と尽きぬ話は薔薇公園
白南風や手の届きさう茅渟の海
木下闇無縁仏を堆く
銀の穂を珠と散らすや大噴水

二〇一一年五月二六日

閉園の蛍の光薔薇夕べ
満開の薔薇を描く人写す人
下闇に隠れ耶蘇てふ夫婦墓
馬車道の坂ゆるやかに万緑裡
松涼し海へ坂なす離宮道
緑陰の三線の音に誘われ

二〇一一年五月二五日

大楠の広げし枝に風薫る
亦一つ音なく落ちし沙羅の花
二〇一一年五月二四日

前山のなきがごとくに夏霞

黒揚羽杉の美林を縫ひにけり
斯く小さき池を天下や水馬

有香
こすもす

毎日句会みのる選・二〇一一年八月二日

有香
三刀
こすもす
きづな
うつぎ
とろうち

花茗荷
なつき
はく子
うつぎ
満天
宏虎
よし女
菜々

はく子
宏虎
有香
菜々
うつぎ
ひかり

満天
ともえ

ともえ